

# 廣瀬由美子先生 略歴



## <学歴>

- 昭和 50 年 4 月  
茨城大学 教育学部 養護学校教員養成課程小学校コース入学
- 昭和 54 年 3 月  
茨城大学 教育学部 養護学校教員養成課程小学校コース卒業 [教育学士]
- 平成 9 年 4 月  
筑波大学大学院 教育学研究科 カウンセリング専攻 リハビリテーションコース 修士課程入学
- 平成 11 年 3 月  
筑波大学大学院 教育学研究科 カウンセリング専攻 リハビリテーションコース 修士課程修了 [修士 (リハビリテーション)]
- 平成 17 年 4 月  
特別支援教育士スーパーバイザー

## <職歴>

- 昭和 54 年 4 月 茨城県守谷市立松前台小学校 他 教員 (平成 11 年 3 月まで)
- 平成 11 年 4 月 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育情報部 上席総括研究員 発達障害教育情報センター長 (兼務) (平成 24 年 3 月まで)
- 平成 15 年 4 月 国立大学法人 茨城大学教育学部 非常勤講師 (平成 24 年 3 月まで)
- 平成 19 年 4 月 国立大学法人 横浜国立大学教育人間科学部 非常勤講師 (平成 23 年 3 月まで)
- 平成 26 年 4 月 明星大学 教育学部 教育学科 教授 (現在に至る) 「教育学基礎演習 1、教育学基礎演習 2、特別支援学校教育課程論、特別支援教育実習、知的障害者の指導法 1、障害者教育総論、教育実践ゼミ 1、2、3、卒業研究」担当

## <学会および社会における活動等>

現在所属している学会

一般社団法人 日本授業 UD 学会

一般社団法人 日本 LD 学会 (国内学会) 会員

平成 11 年 11 月 文部科学省 知的障害養護学校学習指導要領 音楽科 教科書編集委員会 教科書編集委員 (平成 14 年 3 月まで)

平成 13 年 4 月 文部科学省 研究開発運営指導委員会 (東京都文京区駒本小学校) 運営指導委員 (平成 16 年 3 月まで)

- 平成 13 年 4 月 文部科学省 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査研究会 調査委員 (平成 15 年 3 月まで)
- 平成 14 年 4 月 文部科学省 小中学校における LD、ADHD、高機能自閉症等の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン 策定委員会 策定協力者 (平成 15 年 3 月まで)
- 平成 16 年 4 月 東京都立七生養護学校 学校運営連絡協議会 運営委員 (平成 17 年 3 月まで)
- 平成 17 年 4 月 文部科学省 特別支援教室構想 研究開発運営委員会 (大阪府高槻市立五領小学校) 運営委員 (平成 20 年 3 月まで)
- 平成 17 年 4 月 東京都立高島平養護学校 学校運営連絡協議会 運営委員 (平成 19 年 3 月まで)
- 平成 18 年 8 月 特別支援学校学習指導要領の改善のための調査研究委員会 (自立活動作業部会、自閉症・情緒障害教育作業部会) 調査研究協力員 (平成 21 年 3 月まで)
- 平成 20 年 4 月 文部科学省 知的障害特別支援学校学習指導要領 国語科 教科書編集協力者会議 教科書編集協力委員 (平成 23 年 3 月まで)
- 平成 20 年 4 月 文部科学省 研究開発運営委員会 (茨城県岩井市立岩井中学校) 運営委員 (平成 23 年 3 月まで)
- 平成 21 年 4 月 岡山県教育委員会 県単独事業「通常の学級におけるわかる授業づくりについて」運営委員会 運営指導委員 (平成 22 年 3 月まで)
- 平成 21 年 4 月 文部科学省委託研究「自閉症に対応した教育課程の在り方に関する調査研究事業」(岡山県教育委員会) 運営指導委員会 運営指導委員 (平成 23 年 3 月まで)
- 平成 22 年 4 月 横浜市教育委員会 単独事業 特別支援教育学習支援研究開発委員会 副委員長 (平成 24 年 3 月まで)
- 平成 23 年 4 月 和歌山県教育委員会 県単独事業「特別支援教育の視点を取り入れた新しい授業づくり」運営指導委員会 運営指導委員 (平成 24 年 3 月まで)
- 平成 23 年 4 月 茨城県教育委員会 特別支援教育推進会議 推進委員 (平成 25 年 3 月まで)
- 平成 23 年 12 月 文部科学省 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査委員会 特別協力者 (平成 25 年 3 月まで)
- 平成 24 年 4 月 東京都教育委員会 自閉症・情緒障害特別支援学級における教育課程研究指導委員会 指導委員 (平成 26 年 3 月まで)
- 平成 25 年 7 月 文部科学省委託研究「インクルーシブ教育システム構築モデル事業 (スクールクラスター) 運営指導委員会 (茨城県守谷市立御所ヶ丘中学校区) 運営指導委員 (平成 27 年 3 月まで)
- 平成 25 年 7 月 文部科学省委託研究 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 (モデルスクール) 運営指導委員会 (茨城県取手市立取手小学校) 運営指導委員 (平成 28 年 3 月まで)
- 平成 26 年 4 月 文部科学省 発達障害専門性 (植草学園大学) 運営指導委員会 運営指導

委員（平成 29 年 3 月まで）

- 平成 28 年 4 月 一般社団法人 日本授業 UD 学会（国内学会）会員（現在に至る）  
平成 28 年 4 月 一般社団法人 日本授業 UD 学会（国内学会）副理事  
平成 29 年 4 月 文部科学省研究開発「小学校における障害のある児童のための障害の特性に応じた教育内容、指導方法及び評価の在り方についての研究開発」  
運営指導委員会 運営指導委員（現在に至る）

## <教育研究業績>

### [作成した教科書、教材]

- 知的障害特別支援学校国語科☆☆ 平成 21 年 3 月  
特別支援教育の基礎・基本～一人一人のニーズに応じた教育の推進～（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所：ジアース教育新社）  
平成 21 年 9 月 17 日～平成 26 年 12 月 31 日  
小学校算数科用 文部科学省検定済教科書 新しい算数 1 年～6 年（東京書籍）  
平成 22 年 3 月 11 日～現在に至る  
一般財団法人特別支援教育資格認定協会編「SENS 養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 第 2 版」 金剛出版 平成 24 年 4 月 15 日

### [資格、免許]

- 特別支援教育士スーパーバイザー 平成 17 年 4 月 1 日

## <著書>

1. 特別支援教育の校内支援体制づくり 共著 平成 18 年 4 月 明治図書
2. 自閉症教育新時代実践の手引 幼・小・中・高編 共著 平成 19 年 2 月 明治図書
3. 通常の学級担任がみつける資源・つくるネットワーク～個別の指導計画や学級経営に活かすために～ 共著 平成 19 年 9 月 東洋館出版社
4. 通常の学級担任がつくる授業のユニバーサルデザイン～国語・算数授業に特別支援教育の視点を取り入れた「わかる授業づくり」～ 共著 平成 21 年 5 月 東洋館出版社
5. 新教育課程における発達障害のある子どもの自立活動の指導 共著 平成 21 年 9 月 明治図書
6. 特別支援教育の基礎—確かな支援のできる教師・保育士になるために— 共著 平成 21 年 9 月 東京書籍
7. 発達障害の臨床的理解と支援 3 学齢期の理解と支援 共著 平成 21 年 9 月 金子書房
8. 授業のユニバーサルデザインを目指す国語授業の全時間指導ガイド—特別支援教育の視点をふまえた国語授業づくり—1 年 共著 平成 25 年 2 月 東洋館出版社
9. 授業のユニバーサルデザインを目指す国語授業の全時間指導ガイド—特別支援教育の視点をふまえた国語授業づくり—5 年 共著 平成 25 年 2 月 東洋館出版社
10. 授業のユニバーサルデザインを目指す国語授業の全時間指導ガイド—特別支援教育の

- 視点をふまえた国語授業づくり—4年 共著 平成25年3月 東洋館出版社
11. 授業のユニバーサルデザインを目指す国語授業の全時間指導ガイド—特別支援教育の視点をふまえた国語授業づくり—6年 共著 平成25年3月 東洋館出版社
  12. 授業のユニバーサルデザインを目指す国語授業の全時間指導ガイド—特別支援教育の視点をふまえた国語授業づくり—2年 共著 平成25年4月 東洋館出版社
  13. 授業のユニバーサルデザインを目指す国語授業の全時間指導ガイド—特別支援教育の視点をふまえた国語授業づくり—3年 共著 平成25年4月 東洋館出版社
  14. 改訂新版 LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド 共著 平成25年4月 東洋館出版社
  15. 発達心理学事典 15 ささえる「教育分野におけるユニバーサルデザイン」 共著 平成25年5月 丸善出版
  16. 共に学び合う インクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例—小・中学校で学習している障害のある児童生徒の12事例— 共著 平成26年1月 ジアース教育新社
  17. 特別支援学級をはじめ担任する先生のための国語・算数授業づくり 共著 平成27年10月 明治図書
  18. 小学校新学習指導要領 ポイント総整理 総則 共著 平成29年9月 東洋館出版社
  19. 特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる 共著 平成30年7月 学研教育みらい
  20. アクティベート教育学 07 特別支援教育 共著 平成31年4月 ミネルヴァ書房
  21. 特別支援学級をはじめ担任する先生のための自立活動授業づくり 共著 令和3年11月 明治図書

#### <学術論文>

1. ある自閉症児の特別教室への移動技術の形成を目指した一実践—標的行動の獲得を可能にするアセスメント及び指導内容の検討を中心に—(査読付) 共著 平成9年3月 日本特殊教育学研究 37 (5), 121-128 頁
2. 通常の学級における自閉症児の教育の現状—小学校通常の学級担任のニーズを中心に—(査読付) 共著 平成13年2月 国立特殊教育総合研究所研究紀要 28, 77-85 頁
3. 自閉症児における通常の学級児童との交流を促進するための教育プログラム—役割活動が及ぼす効果について—(査読付) 共著 平成13年3月 日本特殊教育学研究 38 (5), 61-70 頁
4. 通常の学級における自閉症児の教育の現状 (2) —個々の自閉症児の特徴と担任のニーズ—(査読付) 共著 平成14年2月 国立特殊教育総合研究所研究紀要 29, 129-137 頁
5. 自閉症児を指導する通常の学級担任へのコンサルテーションの実践—オーダーメイド・マニュアルを使用した事例から—(査読付) 共著 平成15年3月 国立特殊教育総合研究所研究紀要第30巻 30, 25-35 頁
6. 独語行動の軽減を目指した自閉症児の指導(査読付) 共著 平成15年12月 日本

特殊教育学研究 41 (4), 395-403 頁

7. 小中学校における校内支援体制の在り方に関する一考察—「LD のモデル事業」研究指定校の実践から—(査読付) 共著 平成 17 年 3 月 国立特殊教育総合研究所研究紀要第 32 巻 32, 29-38 頁
8. 通常教育をレベルアップさせる校内委員会の活動—校内研修の充実を求めて— 単著 平成 19 年 特別支援教育コーディネーター研究 1 (1), 19-24 頁 (兵庫教育大学)
9. 教育におけるユニバーサルデザイン 単著 平成 28 年 5 月 授業 UD 研究 (創刊), 6-9 頁
10. 授業 UD と特別支援教育 単著 平成 28 年 6 月 授業 UD 研究 1, 22-25 頁 (日本授業 UD 学会)

#### <その他>

1. 通常の学級担任がつくる個別の指導計画 共著 平成 18 年 3 月
2. S.E.N.S 養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 Ⅲ特別支援教育士の役割・実習 共著 平成 24 年 4 月 (金剛出版)
3. 教科の習得状況の「見取り」を踏まえた授業づくり～特別支援学級の実践から～ 単著 平成 29 年 4 月 特別支援教育研究 (東洋館出版社) (716)

# 廣瀬由美子先生のご定年に寄せて

森 下 由規子

2022年3月をもって本学をご退職される廣瀬由美子先生に心からの敬意を表し、感謝の言葉を述べさせていただきます。

廣瀬先生は20年間茨城県の小学校教諭としてご勤務の後、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育情報部 上席総括研究員、発達障害教育情報センター長という要職を経て、2014年4月から本学の教育学部特別支援教員コースにご着任いただきました。本学に着任される前にご勤務されていた国立特別支援教育総合研究所は日本の特別支援教育に関する研究、情報の発信基地的存在であり、発表された論文や報告書、教職員研修プログラム等で先生の研究者としての存在は特別支援の世界では多くの教員、研究者が知るところの方でした。また、文科省の様々な発達障害やインクルーシブ教育システム構築モデル事業に関する運営指導委員、東京都教育委員会の自閉症・情緒障害特別支援学級における教育課程研究指導委員会指導委員などを歴任され、多くの教科書をはじめとする書籍の執筆によって、我が国の特別支援教育を支えてこられたことも特筆すべき功績です。縁あってこのような高名な研究者を本学にお迎えできると決まった時は、奇跡のような出来事に思えました。

ご着任後は学生ファーストの指導に邁進されました。中でもご担当されていた1年生受講科目の「障害者教育総論」は障害全般に関する入門的内容を学ぶ科目ですが、特別支援教員コース以外の多くの学生が受講していました。学生の間で、この授業での学びがわかりやすく、現場に立った時に間違いなくためになる、という評判がもたらした結果だと私は理解しています。各種障害に関する基礎的知識、法律の変遷と理解、特別支援教育の理念等が、丁寧なシラバスに基づいて展開されている授業です。アクティブラーニングが重視される以前から学生同士の学びを「新聞づくり」という形で実践し、学生自らが調べまとめる経験を積ませていました。私自身も一学生となって学びたいと思う授業でした。そして廣瀬先生の真骨頂は何ととってもその評価方法です。学生の学び(提出物)に対する評価を返すことは当たり前のことですが、先生の場合は当たり前を超えたフィードバックをどの授業でも一人一人に丁寧に行っていらっしゃいました。優れた課題が提出されると何点かピックアップし、次の授業時に「どこがどう素晴らしかったか」のコメントをつけ、プリントして受講者に配布することもなさっていました。掲載された学生はもちろん、受講学生のモチベーションは上がったに違いありません。ゼミ生にはゼミノートを作成して学びの整理をさせ、卒業研究指導も論文執筆の作法を守らせた研究のまとめ方を身につけさせていました。廣瀬ゼミの卒業生は社会に出てから、その学びを活かしていることと思



います。

私が廣瀬先生と初めてお会いしたのは十数年前、ある特別支援教育関連雑誌の編集会議の場でした。今と変わらず髪はつやつやのボブスタイルで、凛として自分のご意見をはっきりと主張される姿は本当にかっこよくて、先生が発言すると空気が変わる、そんな気持ちがありました。その上とにかく真面目なお人柄ですから、原稿や提出物の締め切りを破ることが決してない！これが廣瀬先生を知る人の共通の見解だと思えます。そんな評価をしてもらえる人になってみたい、でもとても真似できない。。。私の心の声がいつもそう言っていました。久里浜の海の近くにある国立特別支援教育総合研究所を訪問させていた際には、真っ白なスーツ姿で迎えてくださいました。その姿は青い空と潮のにおいと共に今でも印象深く心に残っています。何年経っても年齢を感じさせない美しさは、先生の何事にも真摯に向き合う生き方がもたらしているのだらうと感じています。

ご自宅から大学までの遠距離通勤、ご体調を崩された時期もありました。本当に大変でいらっしまったらと拝察いたします。先生は外部からのたくさんの講演依頼も断られて大学での本務を大切にしてくださいました。私たちのコースにはなくてはならない方でした。潔い先生はすべての仕事から引退されご家庭に戻られるとうかがっております。ご健康に留意され、今後とも私たちにご指導、ご助言いただければと願っております。長い間、本当にありがとうございました。